

# 虫食い植物腊葉標本の集め方マニュアル ver.1 2016.4.26 s.shiyake

## Entomological Herbarium



### 【集めたい対象】

1. 葉潜り虫（絵かき虫：leaf miner）
  2. 虫えい（gall）
  3. オトシブミ・チョッキリの揺籃(leaf roll)
  4. 虫食いに遭った葉(leaf eater)
- ※シロアリの巣食った住宅の柱(都市の自然展で登場)、カミキリムシ幼虫の被害にあった樹の幹なども  
→サイズが大きいため、きっと展示に使われるときがある  
※「虫のしわざ」には他に、巣、繭、卵のう、糞もあり、可能なら博物館としては組織的に収集すべき

### 【概要】

#### ハーバリウム用より小さい「A4 サイズ」

散歩の途中で見つけても、雑誌などに押せるようにする。必要な部分（葉とか）は小さいのでたくさんのパーツは要らない（パーツ不足で、同定を頼んだ植物屋から叱られる場面が予想されるが、それはさしあたり気にしない：必要ならまた採りに or 確認に行けばよい）。ただし、葉っぱ1枚のみとかにははしないように心がける。可能なら同定用に、新聞紙サイズの標本も採ってハーバリウムに入れるのがよい。

#### 1. 情報提供者＝最低限必要なデータは「採集の場所、採集日、採集者名」

- ・虫食い植物を見つけたら、A4サイズで台紙マウントされることを念頭に採集し、ポリ袋などで持ち帰り、あるいはその場で持っている雑誌などに挟む。帰宅後、新聞紙に挟み、重しをしてきちんと乾かす。
- ・データについて、場所は可能なら詳しいほうがよく、緯度経度かメッシュコードや標高（地図上で×印でよい）があればよいが、「〇〇公園」など、ある程度の面的な情報でもよい。植物名・昆虫名・虫こぶ名がわかっている場合も記録する。生態写真の有無(有の場合はメールで shiyake@mus-nh.city.osaka.jp へ)。
- ・分布などを知るため、標本は1点あればいいというものではないので、同じものが既にたくさん所蔵かどうかは気にしなくてよい。バリエーションを見るには、同一産地でたくさんあってもよい。
- ・摂食していた昆虫も標本に残す。昆虫標本提供の形態の推奨＝針差乾燥か凍結＞生きたまま＞ティッシュか三角紙にくるんだ紙製小箱＞アルコール。※フィルムケース、タッパーなどの密閉容器は腐るから不可（凍ってたら OK）。



図1. イモムシ/毛虫の凍結乾燥による針差し標本。まず凍結→台紙に形よく貼る→凍結乾燥。あとは昆虫乾燥標本と同じ扱い。



図2. 収蔵方法。昆虫用の棚に大型ドイッ箱サイズの段ボールを差し込み、その上に二列で収納。探しにくい（要改善）。

## 2. 虫食い植物標本の提供

・押し葉はよく乾かした後に、A3 二つ折りの紙に挟み、データを書いて、A4 クリアファイルに入れて初宿に渡すというのでよい（できれば、下記要領でマウントまでしてから渡していただくと、たいへんありがたい→初宿は登録番号を付けるだけ \ (^^) /）。もちろん、雑誌に挟んだままでもよい（要データ）。

## 3. 標本製作・登録・管理

### 【標本製作・登録】

- ・虫食い植物標本の台紙は、葉書程度の厚さ（特厚口）の A4。
- ・押葉標本貼付器+ラミネーションテープで貼り付けるのがよい（筆者はアラビアゴムを塗ったコピー用紙を細く切って使用：高価で買えないから）。
- ・ラベルは通常のハーバリウム用よりややコンパクトに。1 標本 1 レコード。ファイルメーカーで自動で通し番号を発生させ、これを登録番号としている（EH 番号）。
- ・生態写真は、カードサイズにプリントして腊葉台紙に貼る。展示時にも見栄えが良い。写真のファイル名を腊葉登録番号(EH-0000.jpg)に変更し、ハードディスクで保存（しかしデジタルデータは消失することがあるので注意）。
- ・台紙が小さいので、大きな葉などの場合、ラベル、写真は台紙の裏に貼ることも可とする。ただし表面にも裏側がデータがあることをわかりやすく記す。
- ・後日、博物館で展示されることを念頭に、センスよくマウントし、ラベルを付す。
- ・昆虫は原則、針差しにする。イモムシ・毛虫などの幼虫類は台紙に貼ってから凍結乾燥し、針差しにする（**図 1**）。台紙は厚くしたほうが、反り返りを防げるかもしれない（要確認）。昆虫標本には必ず EH 番号（後述）を記し、腊葉標本と関連していることを示す。本来は腊葉台紙に貼りつけたほうが離散しないが？

### 【標本管理】

- ・カバーに挟んで、昆虫用の大型ドイツ箱の棚に収納する。ドイツ箱納入時の間仕切り段ボールを入れ、その上に 2 列に置く（**図 2**）。カバーの右下に内容を書く。カバーの代わりに、A4 用のプラスチックトレーや角 2 封筒でも使える（ただし、最上面は A4 の紙を入れておく）。ナフタリンは切らさない。
- ・配列順は、しわざ別（葉潜り、虫こぶ）などよりは、ハーバリウムで使われている植物の分類順か。
- ・昆虫標本はラベルに EH 番号を記した上で、大型ドイツ箱に収納する。

### 【しわざ別の注意点】

#### 穴開きの虫食い腊葉

・摂食者を目撃する機会があったら、できるだけその写真を撮り、昆虫標本も残す。

#### 葉潜り虫

- ・腊葉標本でも幸い、生きていた時の様子をよく残しているのので、写真撮影はさほど重要ではない。
- ・中の虫の標本として残し方が課題。裏から幼虫をほじくり出し、ホールスライドグラスで包埋か？ 茎を水に挿して飼育し、羽化もさせて成虫も得たい。いずれにせよ EH 番号で植物/昆虫を関連づける。

#### 虫こぶ・オトシブミ揺籃

- ・色、形などが大きく変わるので、野外で生品時の写真は重要。
- ・立体的な場合は、できるだけ潰さないようにしながら、葉を平たく乾燥させるのがよい。
  - (1)チョウの展翅のようにパラフィン紙と待針で植物の葉を押す（裏面を上にする）と押さえやすい。虫食い部分はパラフィン紙に丸穴を開け、押さずに乾燥する（**図 3 左**）→同サイズの台紙に木工用ボンドで貼り付け、針差しにし、昆虫標本と同様に保管。
  - (2)全体をクッションにはさんで乾燥させる（**図 3 右**）。特に保護したい部分があれば、さらにワッシャーのようなものを用いる。→A4 サイズの台紙に貼り付ける。



図 3.

左：チョウの展翅の要領で針で押さえる。虫こぶのところは穴をあけてつぶさないようにする。乾燥後は厚紙に貼って針差し。

右：クッションを挟んで乾燥機で乾かす。テープで台紙に貼り付ける